opusdei.org

年間第6週・月曜日 46. アベルのいけにえ

年間第6週・月曜日46.アベルのいけにえー神のためには、私たちの愛情、時間、財貨などの良いものでなければならない。一典礼用品にはならない。一変櫃のイエスへの愛

2024/04/09

年間第6週・月曜日

46. アベルのいけにえ

- 一神のためには、私たちの愛情、時間、財貨などの良いものでなければならない。
- 一典礼用品には品格のあるものを寛大に使う。
- 一 ご聖櫃のイエスへの愛

4 6. 1 生活における最良のものは 神のためにある。愛、時間、世の中 の善

創世記は¹、アベルは努力して育てた肥えた初子、一番良い羊を神に捧げたことを教えています。アベルの捧げ物は神に喜ばれましたが、対照的に兄のカインは収穫されたもののうち、一番良い物を捧げませんでした。

アベルはいわば信心深く、敬虔そのものでした。良い捧げ物をすることは、アベルの捧げ物の本来の目的ではありません。それは奉献と寛大

さ、つまり意向です。神はアベルが 犠牲として捧げたいけにえを好まれ、古くからのユダヤの伝統に従い、おそらく神はそれを受け入れる しるしとして供え物を焼き尽くす火 を放たれたのでしょう²。

私たちの生涯においても、持ってい る物の中で最良のものを神に捧げな ければなりません。カインではなく アベルの捧げ物を差し出さなければ なりません。私たちの時間、所有 物、生活の中の最良のものを神に与 えなければなりません。悪いものや 余り物、つまり、本当には私たちに 要求されていないもので、余り物で あり自分には必要のないものを神に 差し出すことはできません。私たち の全生涯は神のものです。しかもそ れは人生の最良の日々と言えます。 私たちが有するものはすべて神のも のですが、神に捧げものをする時 は、尊敬している人に贈物をするの と同じように、最も価値のあるもの

を用いましょう。人間は身体だけで はなく、霊魂だけでもありません。 肉体と霊魂の両方で構成されてお り、神への信仰と愛を外的に目に見 える行いで表す必要があります。祈 りで神と話したり、数分間だけでも 聖体訪問をしたりすることなく、神 以外のためにすべて時間を使うよう に見える人は何と哀れでしょう。十 分なお金があるのに、神と他の人々 のためにお金を出すとき、極端に倹 約する人もまた哀れです。与えるこ とは常に与える人の心を尊くし、気 高くします。卑劣さは根深くなり、 カインのように嫉妬深い霊魂にしま す。カインはアベルの寛大さに耐え られないでしょう。

「愛の先生である主は、妬み深い御方で、私たちのすべて、私たちのずべて、私たちの愛のすべてを要求なさる。持っているものすべてを捧げ、各々が主のお示しになった道を歩むのを、主は期待しておいでになるのだ」3。主よ、

あなたのために最良の生活、仕事、 才能、所有物 … 私が持っていたか もしれないものすべてを、神よ、こ の人生で私にくださったすべてのも のを完全に無条件に捧げます。持っ ている最高のものをいつも捧げるた めに、あなたのおっしゃることを何 でも受け入れることができるように お教えください。

46. 2 礼拝で使われる品々に寛大 であること。その品々は尊ばれ神に 相応しく価値あるものであるべきで す

神への信仰の最初の証しが、アダム とエバの息子がその犠牲によって為 されたことについて考えることは喜 びです。教会の教父たちが、なぜア ベルにキリストの模範と姿を見たの か理解することは容易です。アベル は牧者です。神を喜ばせる犠牲を捧 げました。彼は、血を流し、「信仰 のための殉教者」でした。

キリストの犠牲を再現するミサの典礼では、神の僕アベルの贈り物を主が受け入れられたように(『ローマ・ミサ典書』第一奉献文参照)、神が主の捧げものを好意的に見ることを願います⁴。 私たちは神への礼を願いますべてのものを寛大にめません。神のためにさなければなりません。神の無限の善

と卓越性に比べれば、常に僅かであ り不十分です。私たちキリスト者は けちけちした打算と、典礼に関する ことへの考慮のなさを避けるよう十 分注意を払わなければなりません。 聖霊は私たちに警告しています。

「あなたたちは傷のあるものをささ げてはならない。それは主に受け入 れられないからである」⁵。

神のために一番良いもの、寛大な心 で用意された聖器具、必要な時間 (必要以上ではない)を割く寛大 さ、慌てず、儀式、或いは、ミサ後 の個人的な感謝の祈りを短くしたり しないことなどです。ミサの祭服と 聖器具類は、品位、質、美しさの最 高のものを神に捧げます。それは勝 利を得た教会が、天国の三位一体に 捧げる典礼の輝きのしるしであり、 私たちの間に神の現存を認める力強 い助けとなるからです。生温さ、 弱々しさ、冷淡な信仰は、神聖なも のを聖なるやり方で取り扱っていな

いことを意味することになるでしょう。私たちは至聖なる三位一体が受けるに相応しい栄光、誉れ、荘厳さ を見失っていることになるでしょう。

「テントの中に保管されていた契約 の櫃のために、ダビデが一つの家を 建てたいと望んでいた場面を覚えて いますか? テントの中で、ヤーウェ は神秘的な方法、雲と驚くべき現象 を使ってその存在を知らせました。 そしてこれらはすべて、象徴、前表 そのものだったのです。一方、神は ご聖体が置かれている聖櫃の中に実 際におられます。ご聖体の形で、御 体、御血、霊魂、神性ともどもイエ ス・キリストがそこにおられるので す。信仰の行為を明白に表明するこ とは本当に嬉しいことです。聖櫃の 中で、イエスは私たちの上に立ち、 私たちを愛し、私たちを待っておら れます」。

神のために使用するものについて費 やす代金の問題は出てきますが、そ れは、ファリサイ人のシモンの家で の場面で取り扱われています。そこ では、イエスは来客に払われるはず の(普通の)心配りが欠けているこ とに気がつきました。「ベタニアの 規定の病者シモンの家で、イエスの み頭に高価な香油を注いだあの婦人 は、典礼に関する事柄を盛大に行う べき義務を思い出させてくれる。ど んな贅沢、荘厳さ、美しさでも、充 分ではないと思う。それに、豪華な 聖具、祭服、祭壇について批判する 人々をみると、ベタニアでのイエス の賞賛のお言葉が聞こえてく る。"opus enim bonum operata est in me"『私によいことをしてくれ た』丨。一生を奉献することについ ても、時間、物など多くのやり方で 表すことのできる寛大さについても 言うことができるはずです。「私に よいことをしてくれたのである | 、 主は行いで愛を表されています。

46.3 聖櫃におられるイエスへの愛

誕生の時、イエスには貧しい子ども のゆりかごさえありませんでした。 時には、弟子たちと共に枕する所さ えありませんでした。衣を剥がされ て、大変な貧しさのうちにお亡くな りになります。しかし、イエスの亡 骸が十字架から降ろされて主を慕う 人たちに手渡されると、主は崇拝、 尊敬と愛をもって取り扱われます。 アリマタヤのヨセフは主のご遺体を 包む立派な亜麻布の覆いを、ニコデ モは必要な香料を買います。聖ヨハ ネは多分、約100ポンドの重さの、 この香料のあり余るほどの量に驚い たことでしょう。彼らは共有の墓地 にイエスを葬らず、ヨセフが自分の ためにこしらえた墓、庭園にある新 しい墓に葬ったのでしょう。婦人た ちは墓を見、イエスが横たわってい るところを見ました。町に戻った 時、彼らは香料をもっと多く準備し

ました。イエスの御体が、彼を愛する人々の手に渡される時、自分の主への愛の大きさを競って表しました。

イエスは、ベツレヘムやカルワリオ におられるように、聖櫃の中で生き て存在しておられます。私たちが できる最も良いものできる最も良いものを のできる限りの心遣いと配慮を のできる限りの心遣いと配慮を かできるとができるよう、 のでになることができるよう、 のでになることができるよう。 のでになるできるよう。 のでになるできるよう。 のでになるできるよう。 のでになるできるよう。 のでになるできるよう。

尊敬と愛が礼拝に関するすべてのものに対して寛大に示されるでしょう。隣人に対する愛のためであっても、神への愛に欠けることがあってはなりません。もし、神そのものらはなりません。もしい人々への寛大神の似姿である貧しい人々への寛大さは、賞賛の価値はありません。つ

まり、たとえ賞替されても、一人ひ とりの犠牲が伴わなければ価値はな いのです。神を愛するなら、隣人に 対する私たちの愛は深く本物になる でしょう。それは物事に値段をつけ ることではありません。単なる数学 的計算は問題になりません。浪費を 正当化することではなく、むしろ、 私たちの神への愛が相応しいかどう かが問題です。この愛は物質的な方 法で表されなければなりませんから 8。 余暇やレクリエーションのため に、立派で豪華な建築材料を使うこ とは、浪費を意味しますか?しか も、神を敬うために、ただみすぼら しいだけでなく、寒く、安っぽく作 られた哀れな建物はどうでしょう か? もしそうなら、詩人が、いくつ かの教会の荒れた状態は、私たちの 罪と欠点、私たちの弱さ、貧困、信 仰と思いやりの不足、心の渇きと超 自然的なものへの嫌悪の外的なしる しだと言うのは正しいことになるで しょう°。

教会は神の栄誉を守るために、常に 心を配って警戒していますから、他 の時代が提供する解決策とは異なる 解決策を拒むことはしません。教会 は清潔で喜ばしい貧しさを祝福しま す。経済的手段は殆どないが、信仰 に満ちた村に、簡素ですが村に相応 しい素敵な教会がどれほどたくさん あることでしょう。 教会が見て見ぬ ふりをすることができないのは、怠 慢、悪い趣味、神を礼拝するものを 奉納する場所や建物に対して表れる 神への愛の欠如です。できるなら ば、決して自分の家には入れたくな いものだからです。

普通の信者が、様々なやり方で献身 的に、神を公に礼拝するのに関係す るものすべてを管理し、丁寧に保管 するのは正しいことです。ミサの表 象は大部分が目に見えるものです。 典礼に関係する多くのものは目をと おして入ってきます。典礼の儀式 後、出席していた人々は、今までよ りもっと神を愛するよう励まされ、 喜びと勇気に満たされ、信仰を強め られて立ち去るはずです。

聖母に、大きなことにおいても、小さなことにおいても、また若者に対しても、また若者アがしても、大人に対してもらられた時と同じくらいたように、かったようになができるようにしたようであれる最良のものを神に捧げることができるようにしてくださいとお願いしましょう。

 $[\]frac{1}{2}$ First Reading, Year 1, cf Gen 4: 5 - 2.5

² The Navarre Bible, note to Heb 1 1:4

³ 聖ホセマリア・エスクリバー 『鍛』 4 5

⁴ The Navarre Bible, note to Heb

- ⁵ レビ 2 2 · 2 0
- ⁶ 福者アルバロ・デル・ポルティー リョ 説教 1986年7月20日
- ⁸ 第二バチカン公会議 典礼憲章 1 2 4 参照
- Paul Claudel, Absense and Presence

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-VI-getsu/ (2025/12/12)